

令和3年度  
(公社)日本ホッケー協会中学校部会  
第2回常任委員会議事録



期 日:令和4年2月26日(土) 13時00分～

会 場:栗原市築館多目的競技場管理棟 宮城県栗原市築館高田2丁目8-12

参加者(敬称略)

- 中学校部会会長:馬場治男(埼玉県:南高麗中学校長)
- 中学校部会副会長:高橋千春(宮城県:築館中学校校長)
- 中学校部会事務局長:久保克敏(京都府:瑞穂中学校)
- 事務局:徳光 寿(山口県:高森みどり中学校)
- 競技部:鈴木良子(兵庫県:丹南中学校)

常任委員会

- ・構成員:17名
- ・出席者:14名

規約第6章第19条に則り本会は成立

常任委員:松村洋介(東北) 大嶋寿美(関東) 柳生香奈(北信越) 山本 誠(東海)  
柏本宏和(近畿) 道端良之(中国) 岩尾幸美(九州)

U-15海外遠征事務局:幸田伸也(奈良県:榛原中学校)、吉原荘二(宮城県北部教育事務所)

令和4年度全中大会事務局:佐々木 英則(栗原市教育委員会社会教育課長)

鈴木 隆之(栗原市教育委員会社会教育課)

酒井 洋行(栗原市教育委員会社会教育課)

千葉 和哉(宮城県ホッケー協会事務局)

曾根原 龍太(宮城県ホッケー協会理事、築館中学校)

文責:徳光 寿(事務局)

## 1 開会

## 2 あいさつ

会に先立ち、馬場治男中学校部会長(埼玉県南高麗中学校長)にご挨拶をいただく。本会議はコロナ禍での対面会議ということで2時間以内の会議であることを確認した。

## 3 協議事項

(1) 第52回全日本中学生ホッケー選手権大会.....(宮城県大会実行委員会)

・「実施要項」「会場関係」について検討

別刷資料あり

来年度もコロナ禍での大会運営を行う可能性が高いことを共通確認した。

→監督会議をオンラインで行う可能性あり。オンラインの場合は、8月17日(水)2日前を基本とすること。監督会議がオンラインなら開会式はなしになることを確認。

→競技時間について今年度同様、来年度も宿泊会場が広範囲になることから9:00開始を9:30開始にする。

→参加申込は8月5日までとする。近畿地区はブロック予選が8月6~7日のため、ブロック予選に参加するチームは事前に参加申込を実行委員に送付する。(例年通り)

- ・宿泊・弁当要項について  
名鉄観光から説明を受ける。  
→シングルルームを中心に確保している。保護者の宿泊については大会が無観客になる可能性もあることから、業者負担を減らす観点で業者の斡旋をしない方向で進めることを確認。

\*全中大会および11人制大会の宿泊についての留意事項

- ・大会期間中については、必ず大会事務局を通して宿泊申し込みをする。
- ・弁当については、以前より希望制としている。
- ・全中大会では大会初日(開会式の前)に公式練習を設ける。

- ・JOC有望選手のトロフィーについて(事務局より)  
令和3年度よりJOCからトロフィー(最優秀選手用)が支給されなくなり、中学校部会で用意をすることとなった。
- ・全中大会の手当者については、来年度からは日本ホッケー協会に登録された者であることとなりますので各ブロックに周知をお願いした。
- ・日本ホッケー協会(JHA)からの補助金  
全中大会 180万円  
11人制大会 120万円

(2) 全国大会内規事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(事務局) 資料1

- ・日本ホッケー協会中学部会規約の一部改正について報告し、承認される。
- ・全国大会内規事項の一部改正(資料1)について報告し、承認される。

・各ブロック参加枠数の決定 資料2

ブロックの枠数配分の方法は、昨年12月31日時点の登録チーム数(チームとして人数を満たしている(合同チームを含む)数による比例配分により参加枠を決定する。

	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州	開催枠	優勝枠	合計
男子	0	3	4	3	2	4	3	1	2	1 宮城	1 中国	24
女子	0	3	4	4	1 or2	4	3	1	1 or2	1 宮城	1 中国	24

- 男子については、上記案で承認。
- 女子については、比例配分の計算値が東海と九州が同じになり、1枠を分け合うこととなったため、どのように決定をするか検討をした。各ブロックの意見を集約し5月の常任委員会で最終決定を行う。



次年度以降について

福井県にさらに2年継続(R4年 R5年)をお願いし、承諾をいただく。  
しかし、2年後の11人制大会については開催地を含めて早急な検討が必要になってくる。  
令和4年度から2年後に向けて動き出す必要がある。  
具体的には、

- ・令和4年度に11人制大会実行委員会を立ち上げ、中学校部会の競技部を中心として各ブロックより次世代のリーダー(若い指導者)を募り実際に動き始めることを確認。

(5) 令和3年度「事業報告」及び「決算(中間まとめ)」・・・(事務局、会計)  
事業報告(資料3)、決算報告(資料4)を報告し、承認される。

(6) 令和4年度中学校部会役員(案)・・・(事務局)  
資料5の役員案で承認される。

- ・会長・・・次年度全中大会開催地(宮城県)の校長先生にお願いする。
- ・副会長・・・令和5年度全中大会開催地(岡山県)の校長先生にお願いする。
- ・常任委員、専門委員の交代について確認・・・基本は各ブロックに任せている。  
次年度ブロック常任委員、専門委員を変更する場合は、旧常任委員で責任をもって5月の常任委員会までに事務局(徳光)に連絡をする。
- ・四国ブロックの常任委員・・・今後の動向を見て中学校の顧問の先生になっていただく。

(7) 令和4年度「事業計画(案)」及び「運営費予算(案)」・・・(事務局 会計)  
事業計画(案)(資料6)、予算案(資料7)を報告し、承認される。

(8) ジュニアユースU15日本代表チームについて・・・(遠征事務局・事務局)

○選考会について、遠征の概要について現時点でわかっていること

1) 次年度の選考会開催場所(案)は・・・

日 程 2022年9月17日(土)18日(日)19日(月)

※例年9月の3連休で行っている

場 所 現在調整中

宿泊場所 現在調整中

懸案事項・・・男女一緒に行うか分かれて行うか

- ・来年度は9月23日、24日、25日も3連休があるため、男女日程をずらしてやることも視野に入れて検討する。
- ・現状、愛媛県からは会場使用の許可を得ている。男子は1面では厳しいかもしれないという意見もあるため各ブロックで会場を探す。

2) 海外遠征が可能かどうか？

基本は海外遠征をする方向で考えるが、遠征ができなければ、代替案を考える。

- ・現時点では厳しいと考えるが、今すぐ結論を出さず、状況を見ながら判断を行う。  
ということを確認。
- ・U15/16(中学生世代)のタレント発掘の方法

(9) 競技部・審判部より・・・ 2月12日におこなわれたルール研修会の伝達

別紙資料あり

=競技部・審判部(鈴木競技部長)より=

- ・ルール統一研修会(2/12)の伝達講習

(10) その他

\* 課題提議

今後の部活動に関する国の方針

R5には休日の部活動は、

①休日において部活動を地域の活動として実施できる環境作り～学校部活動から地域部活動へ

②休日に教師が部活動に携わる必要のない環境作り～地域の人材活用

を鑑み、合同チームの規定も含め、全中大会の参加条件も現状のままを進めて行くのか、また新たなものを考えるかを検討する時期である。

<現状>

・監督について

教員及び部活動指導員（※外部コーチは認めない）

・合同チーム編成条件

\* 学校長の承認は必要。・・・学校管理下による大会実施を守る。

\* 必ず教員による引率であること。

\* 合同チームとして認められる範囲は、活動実績のある 4チームまでとする。

↑ R3.4.19 承認

\* レンタルによる合同チームについては全中大会では認めない。

合同チーム申請の流れ

4月に中学校部会 HP に「合同チーム申請書」をアップする。



・合同チーム申請方法の変更について

①合同チームの申請をするチームは5月第3週目水曜日までに各ブロック  
常任委員に申請をする。（申請書の p d f での提出締切）

②5月第三週土曜日までに各ブロックの常任委員はブロックの状況をまとめ、  
事務局に申請書の p d f をメールで送り報告する。

③合同チームの申請書原本は各ブロックの常任委員が常任委員会に持参する。  
（※各チームは常任委員会（5月第4週目土曜日）までに常任委員に原本を  
送付すること。）

○公印の押された物を提出する。押されていない物は認めない。



第1回目の常任委員会で確認・承認

・合同チーム申請の手続きに関して変更点があるので、ブロック内での周知をお願いした。

・部活動の在り方について、各ブロックの状況交流

令和5年度に向けて部活動の在り方が各府県で変わりつつある現状の情報交換を行った。多くの府県では部活動の地域移行に対して模索状態であることを確認した。

岩手県においては、すでに休日の部活動の段階的な地域移行が進んでおり、その現状について松村常任委員から報告があった。

①公認スポーツ指導者の義務づけ（変更）について

・馬場会長より指導者の資格取得について報告があった。義務づけられることになれば、顧問の負担となることから、中学校の立場としては、義務について慎重な立場としたいということ全体を確認した。

②J-STAR プロジェクトについて

・馬場会長からプレゼン資料をもとに活動について報告があった。

最後に、日本ホッケー協会中学校部会副会長高橋千春（宮城県築館中学校校長）様から閉会のご挨拶をいただいて、会を閉じた。

連絡事項・その他

・次年度第1回目の常任委員会の日程確認

令和4年5月21日（土）場所：未定